



HULFT10 製品紹介資料

株式会社セゾンテクノロジー

目次

- HULFT10リリース概要
- HULFT10について（全体概要）
- 主なリリース内容
- 新ラインナップのご紹介
 - ✓ HULFT10 Smart Proxy
 - ✓ HULFT10 API Gateway
 - ✓ HULFT10 for Container Platform

HULFT10 リリース概要

■ リリース日 : 2024年12月予定

■ リリースバージョン : 10.2.0

■ 主なリリース内容

- ✓ インターネット転送
- ✓ 転送性能向上, UI/UX向上
- ✓ HULFT統合管理
- ✓ クラウドネイティブ対応 (コンテナ / REST API対応)
- ✓ セキュリティ向上 (FIPS140-2対応 / PCI DSS v4対応)

■ リリース対象

- HULFT10 for Linux
- HULFT10 for Windows
- HULFT10 for IBMi
- HULFT10 for zOS
- HULFT10 for AIX
- HULFT10 Manager
- HULFT10 Smart Proxy
- HULFT10 API Gateway
- HULFT10 Container Services

■ リリース日 : 2025年3月予定

■ リリースバージョン : 10.3.0

■ 主なリリース内容

- ✓ Kubernetesコンテナオーケストレーションプラットフォーム on Red Hat OpenShift対応
- ✓ Red Hat社 Operator認定

■ リリース対象

- ✓ HULFT10 for Container Platform

HULFT10について（全体概要）

業務システムの長期的な安定稼働に貢献

制約なく自由に		リスクを減らし安全に	
連携	連携先の制約・事情に縛られずに連携できます。	可用性	高可用性の構成で構築可能、障害発生時は容易に復旧できます。
構築	運用自動化に必要な機能を開発不要ですぐに使えます。	完全性	データの欠落・改ざんなくシステム間で確実に連携します。
運用	手間がかからず少ない学習コストで誰でも使えます。	機密性	法令・セキュリティ基準に準拠しデータ漏洩を防ぎます。

HULFTの歩み

DXのバラバラをスルスルに。
HULFTの「つなぐ」は進化を続けます。

HULFTは、1993年のリリース以来、時代の要求に応え続けました。
HULFTリリースから30周年を迎えた現在でも、
ファイル転送のデファクトスタンダードとして愛され続けています。

HULFT10

クラウドネイティブ
対応

HULFT8

クラウドストレージオプション
クラウドリフト/
クラウドシフト対応

オンプレミスから
クラウド環境への連携

- クラウドストレージへの直接連携によるセキュリティ向上と運用負荷の軽減

HULFT8

運用/導入の負荷軽減

HULFT7からの
機能追加、性能向上

- 転送速度の向上
- セキュリティ強化
- サイレントインストールによる運用コストの削減
- 運用支援機能の追加

HULFT7

ファイル連携の
デファクトスタンダード

パフォーマンス向上

- 転送速度の向上
- 監査ログ対応

HULFTをコンテナサービス化

- 必要な時に必要な分だけHULFTを利用
- スケーリング設定やAPI連携等の新たな価値を提供
- インターネット経由での安全なファイル連携

何故HULFT10なのか

HULFT30周年記念リリース
単純VersionUpではない大きな進化

2008年

2014年

2019年

2024年

HULFT10ラインナップ

本体製品

HULFT10 for Windows etc..

各OS環境に導入可能なHULFT

HULFTをご利用中のお客様が引き続きご利用する場合や、新規にHULFTをご利用する場合にご検討ください。

HULFT10 for Container Services

コンテナ環境に導入可能なHULFT

各クラウドサービスMarketplaceからコンテナイメージとして利用します。

HULFT10 for Container Platform

コンテナ環境に導入可能なHULFT

コンテナイメージを自社環境にダウンロードして利用します。

関連製品

HULFT10 API Gateway

HULFT統合管理ミドルウェア

Web画面やREST APIにて、インターネット経由で複数HULFTの管理やリモート監視をします。

HULFT10 Smart Proxy

インターネット対応プロキシ

オンプレミス側のHULFTと各種クラウドサービスを安全に接続します。

HULFT10 Manager

HULFT統合管理ミドルウェア

LAN内の各ホストに導入されているHULFTを集中管理します。

オプション製品

HULFT10 Cloud Storage Option

クラウド上のオブジェクトストレージ（Amazon S3 / Azure Blob Storage / on Google Cloud Storage™ Service）に対して、通常のファイル転送と同様の運用方法でアップロードおよびダウンロードを可能にするオプション製品です。

HULFT10 Cipher Option(AES)

通常の暗号化方式とは異なる暗号化方式で転送データを暗号化します。本暗号オプションを利用すると、HULFTが対応するさまざまなプラットフォーム間で、より暗号化強度の高いファイル転送が可能になります。

HULFTラインナップの拡張

HULFT8 ラインナップ

HULFT8

HULFT8 for Linux

HULFT8 for Windows

HULFT8 for IBMi

HULFT8 for zOS

HULFT8 for UNIX

HULFT8 Manager

HULFT8 for zLinux ※1

HULFT8 for MSP/XSP ※1

HULFT8 for NonStop ※1

HULFT-HUB ※1

※1 バージョンアップは行わず、HULFT8を維持継続致します。

VerUP

本資料説明対象

HULFT10 ラインナップ

HULFT10

HULFT10 for Linux

HULFT10 for Windows

HULFT10 for IBMi

HULFT10 for zOS

HULFT10 for AIX

HULFT10 Manager

HULFT10 Smart Proxy

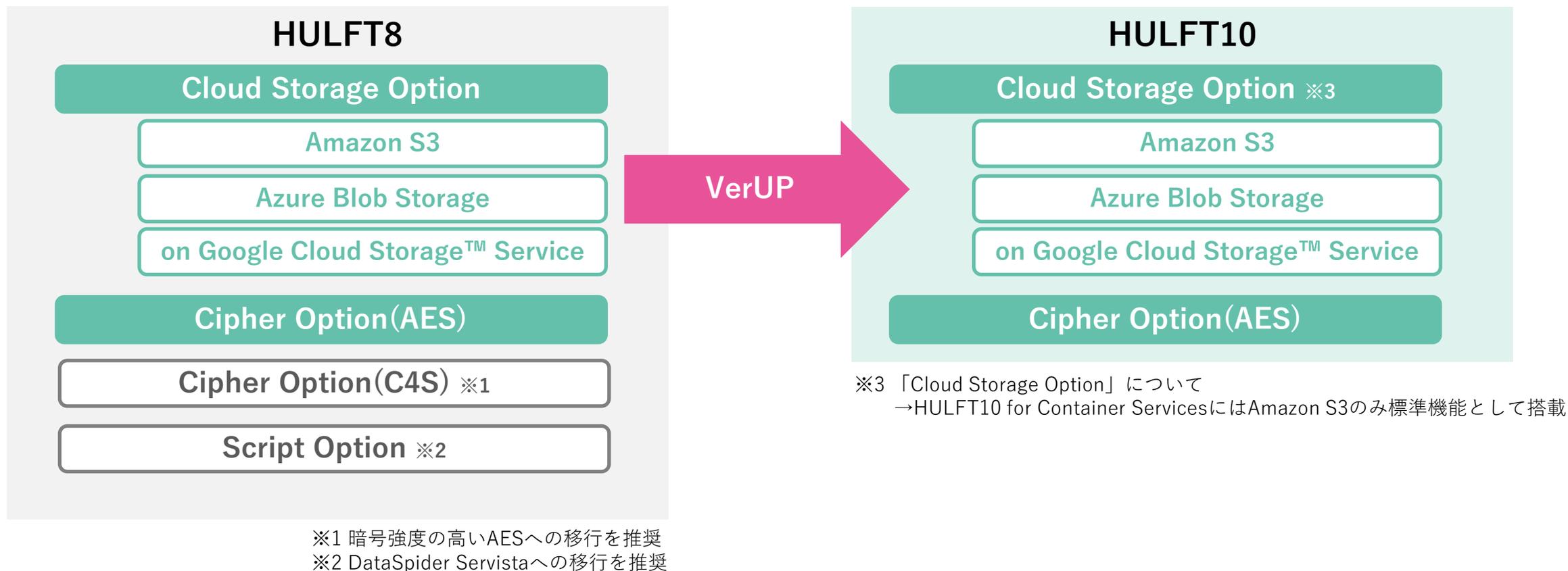
HULFT10 API Gateway

HULFT10 for Container Platform

HULFT10 for Container Services

HULFTオプションラインナップの拡張

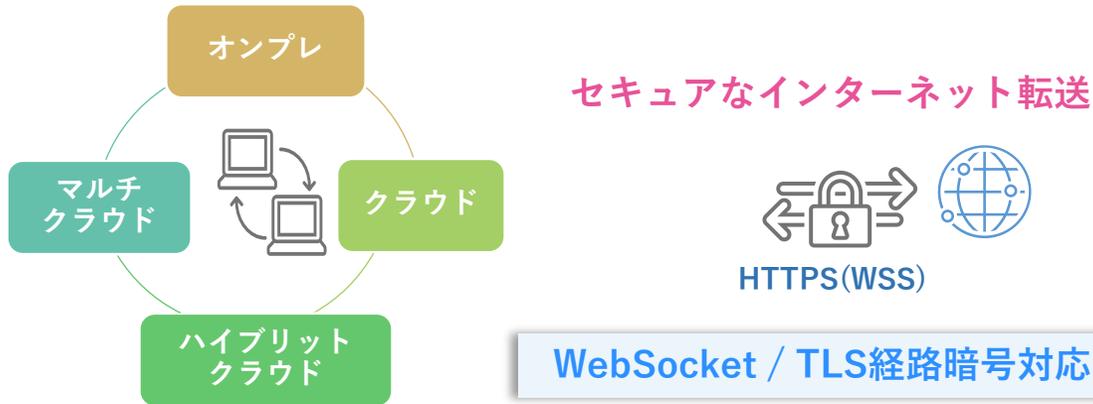
- オプション製品のバージョンアップ対象は、AES暗号とクラウドストレージオプション



主なリリース内容

HULFT10で実現するデータ連携の進化

インターネット転送



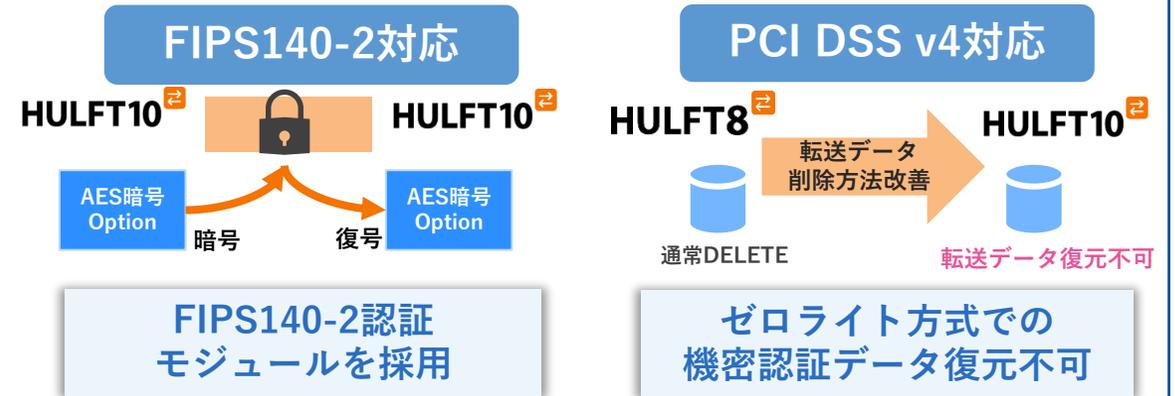
クラウドネイティブ対応



HULFT8を超える転送性能向上



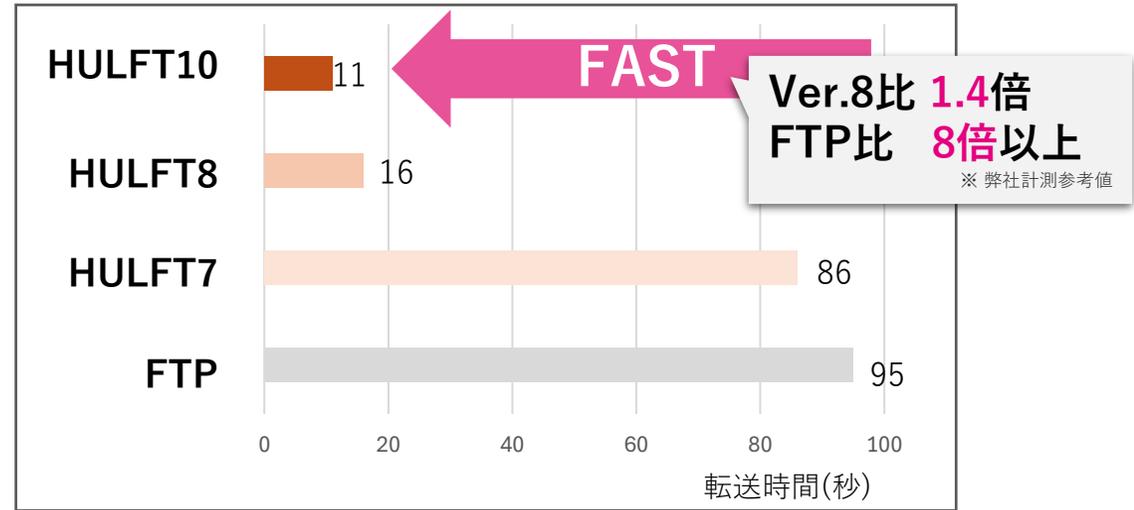
業界標準への対応で安全安心の追求



HULFT10 for Windows/Linux/AIX/zOS (新圧縮方式 ZstandardとzEDCによる圧縮)

新圧縮方式採用 (Zstandard) で現行バージョンを超える転送性能向上

- HULFT10 for Windows、Linux、AIX
- 新圧縮方式による転送性能向上



zEDCによるDEFLATE圧縮で転送することにより転送性能向上とCPU使用率の削減

- HULFT10 for zOS



HULFT10 for Windows/Linux/AIX (PCI DSS v4対応)

目的

- HULFTが転送データ等を復元不可能な状態で消す機能を実装することで、HULFTを利用したシステムのPCI DSS v4.0準拠を支援する

実装方法

- 復元不可能な状態にする方法は、データをすべてバイナリコード0で上書きする（ファイルの削除だけでなく、ファイルの中身をクリアする際も対象）

【設定箇所】（システム動作環境設定-セキュリティ-転送関連ファイルの削除モード）



【対象ファイル】

配信ファイル	集信一時ファイル
集信ファイル	複数集信ファイルデータ抽出後ファイル
集信ファイル(バックアップ)	ファイルレコード編集後ファイル
集信ファイル(CSV形式)	結合ファイル
世代管理ファイル	分解ファイル
複数集信ファイル	

【PCI DSSとは】

Payment Card Industry Data Security Standardの頭文字を取った略称。加盟店やサービスプロバイダにおいて、クレジットカード会員データが安全に取り扱うことを目的として策定されたクレジットカード業界のセキュリティ基準。

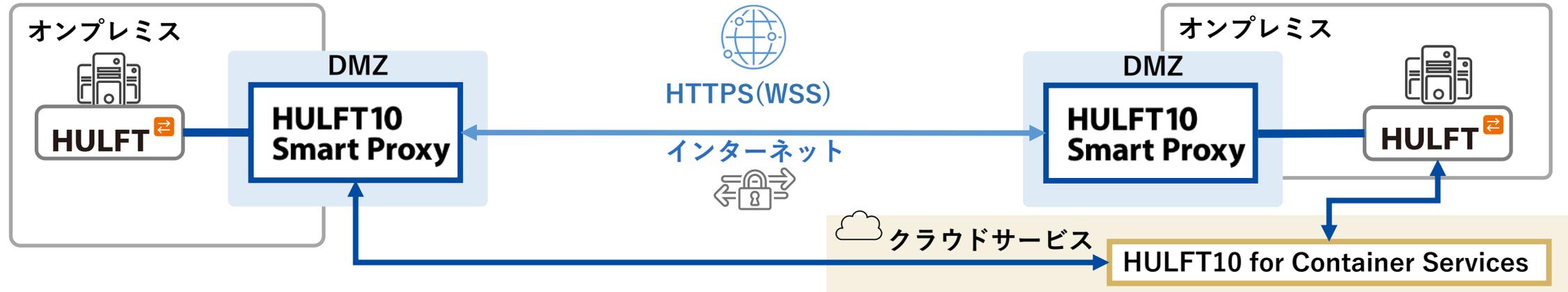
新ラインナップのご紹介

Smart Proxy

API Gateway

Container Platform

- HULFTによるファイル転送の中継機能に特化したインターネット対応プロキシです。オンプレミス側のHULFTと各種クラウドサービスを中継することで安全に接続します。



クラウドトリガ

✓ クラウド起点によるオンプレミスへのシームレスなファイル連携

クラウドサービス連携強化

✓ HULFT Squareやコンテナ版HULFTなどのクラウドサービスとの連携

転送時間最大30%削減※

✓ サーバー増強など不要なままに大量ファイル転送や長距離転送を実現

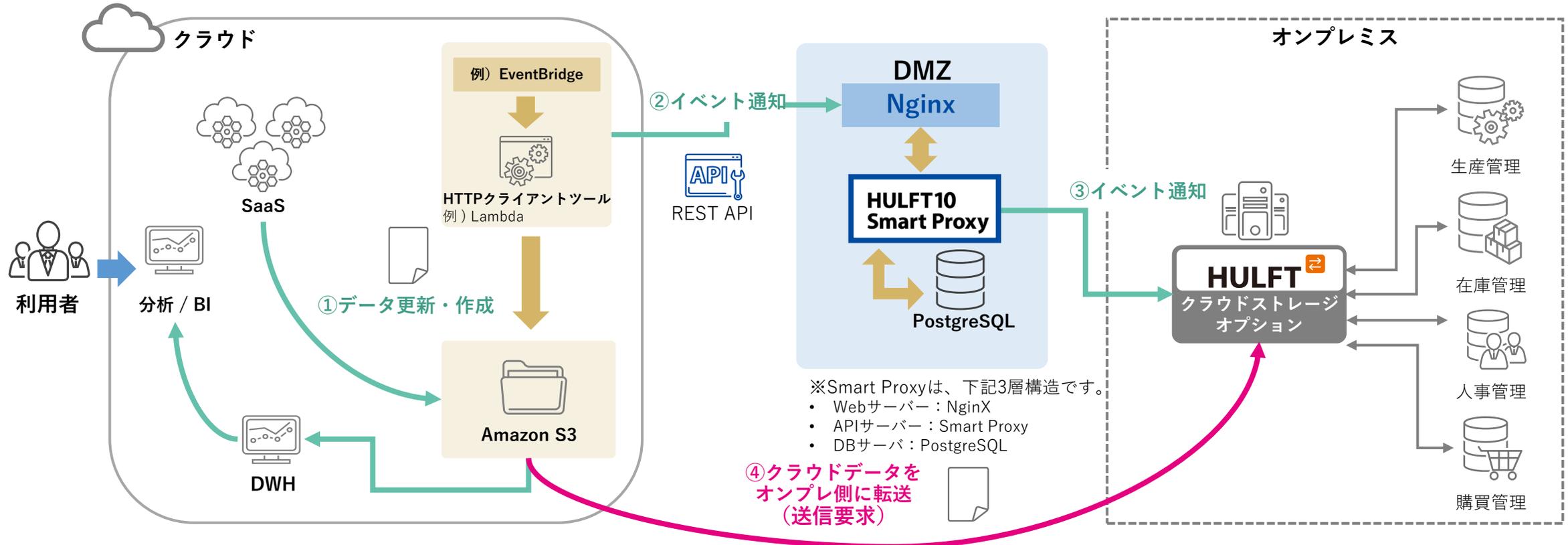
※当社計測参考値の場合、かつ大容量転送の場合に限ります。

Point

HULFT10 Smart Proxyでは、**配信要求、送信要求のAPI**を準備しています。

※順次、提供APIの拡張を検討しています。

■ クラウドで発生したイベントをオンプレミス側に通知



課題

- ✓ クラウド側でファイルが作成された場合に、通知などの方法はいくつかあるものの、オンプレミス側へのシームレスなファイル連携ができない。

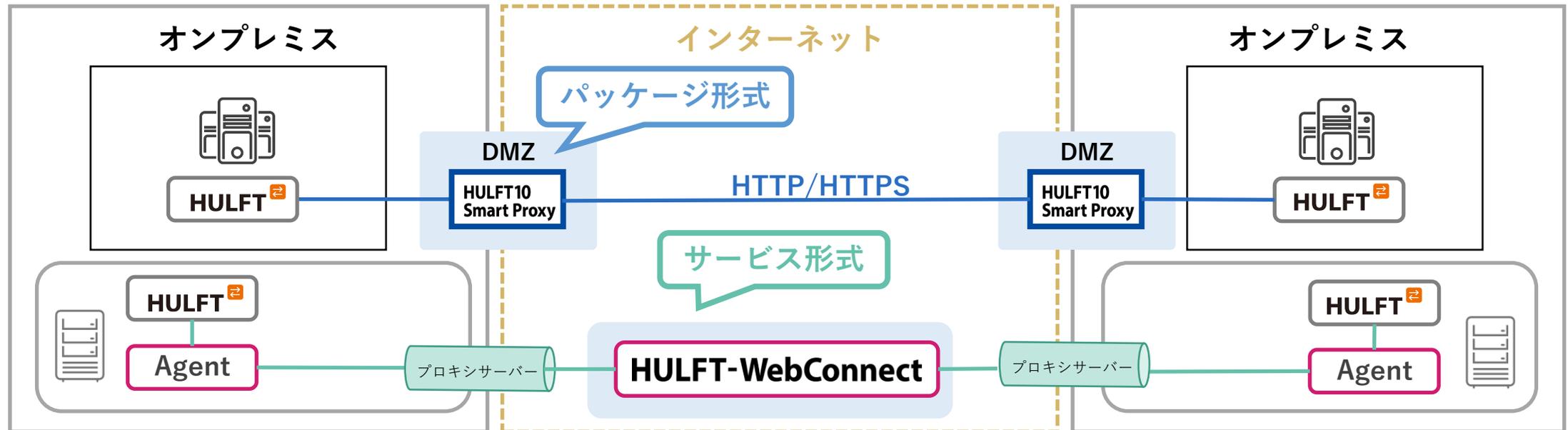
解決

- ✓ クラウドトリガによりクラウド側で起こったファイルイベントを起点にオンプレミスへのファイル連携可能
- ✓ 一般的な**REST API方式**のデータ連携で学習コスト低減

ここが違う！棲み分けポイント！

パッケージ製品のため、オンプレミス環境で柔軟に運用できる

- ・機密データや個人情報など各企業で設定したセキュリティポリシーに準拠した柔軟な「**セキュリティ確保**」
- ・自社環境内で一貫した運用管理をすることでサービス運用に左右されない個社個別の柔軟な「**安定稼働**」

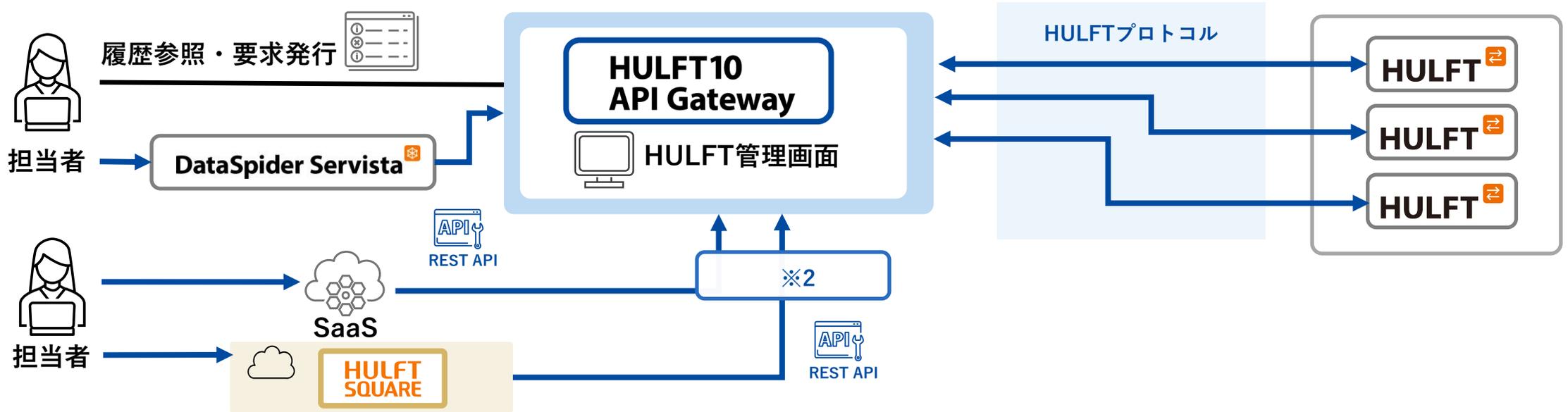


Smart Proxyについて

HULFT管理画面からSmart Proxyを通過するファイル連携を制御できます。
Smart Proxyの詳細ログ（中継履歴など）は、管理コマンドにて確認します。

- ※ 運用管理面での機能拡充は別途検討中です。
- ※ プロキシ認証（Basic認証 / Digest認証）に対応しています。

- Web画面やREST APIにて、複数HULFTの統合管理をするミドルウェアです。管理画面から複数HULFTの管理情報や集配信履歴を管理します。



外部
連携

Web管理画面によるHULFT統合管理

✓ 複数HULFTの設定値設定や確認を集約

操作性

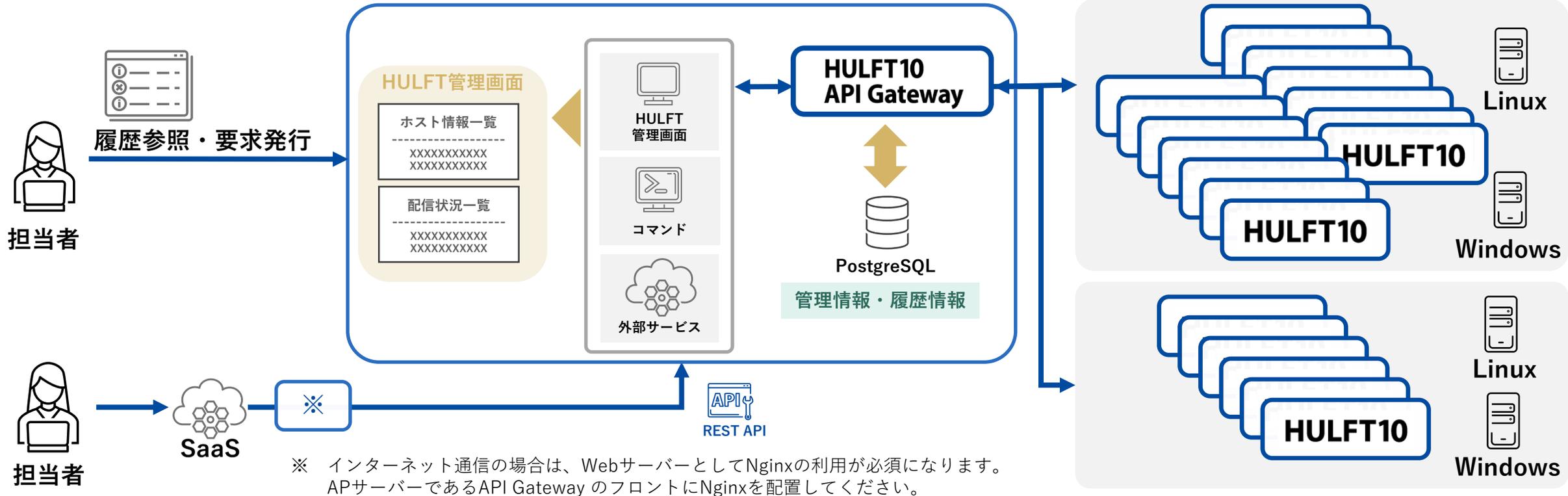
REST API機能

✓ 管理対象HULFTの設定情報を制御

※1 HULFT-HUB L版との互換性はありません。今後変更になる可能性があります。

※2 インターネット通信の場合は、WebサーバーとしてNginxの利用が必須になります。APサーバーであるAPI Gateway のフロントにNginxを配置してください。

■ ブラウザを利用し、HULFTの管理（管理情報の管理、履歴参照、要求発行）が可能



課題

- ✓ 異なる稼働環境のHULFTの個別管理には、それぞれのHULFTでの操作が必要となり運用負担が大きい。
- ✓ HULFTの個別設定までの技術習得には少なからず時間が必要となる。

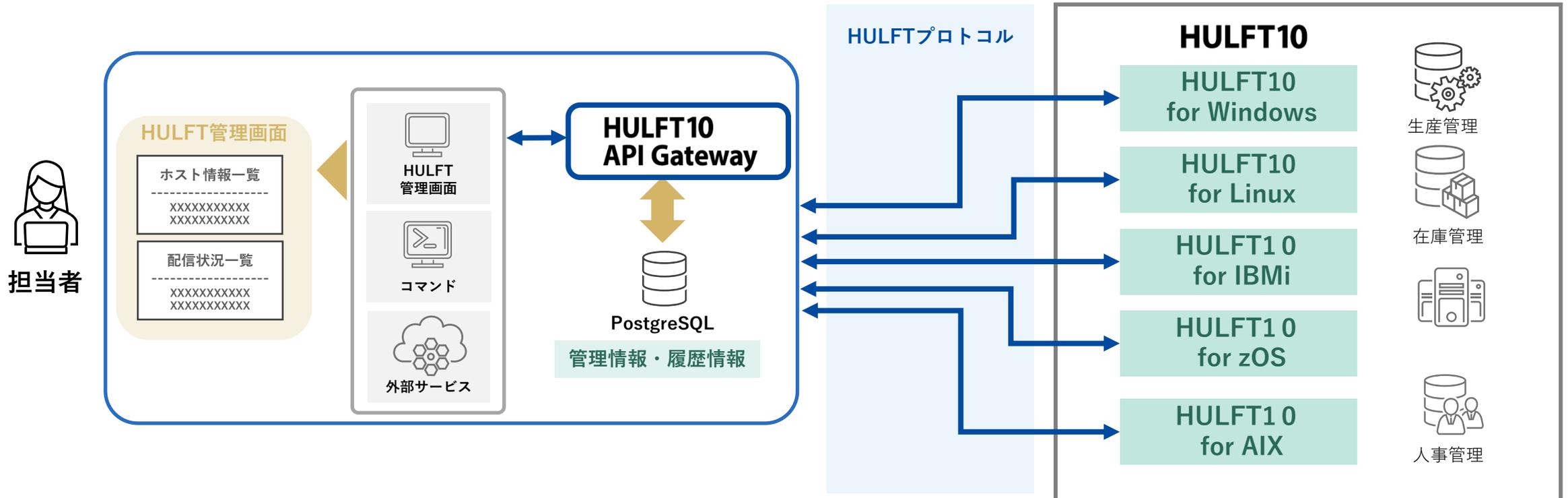
解決

- ✓ Webブラウザ経由で異なる稼働環境の複数HULFTを統合的に管理でき運用負荷が大幅に軽減される。
- ✓ 複数HULFTの設定登録・参照などの統合管理用のAPI提供により一般的な技術者が即時利用できる。

ここが違う！棲み分けポイント！

IT技術者の不足問題

- ✓ データ連携APIが提供されるため、**IT技術者の確保**が容易であり、データ連携処理の構築をスピーディに実現
- ✓ データ源泉側のHULFT技術者はそのままに、管理側ではAPIを用いた統合管理を実現



※上図は、各HULFTとの連携でLANを利用している場合の図になります。インターネット利用の場合は、併せてNginxをご利用ください。

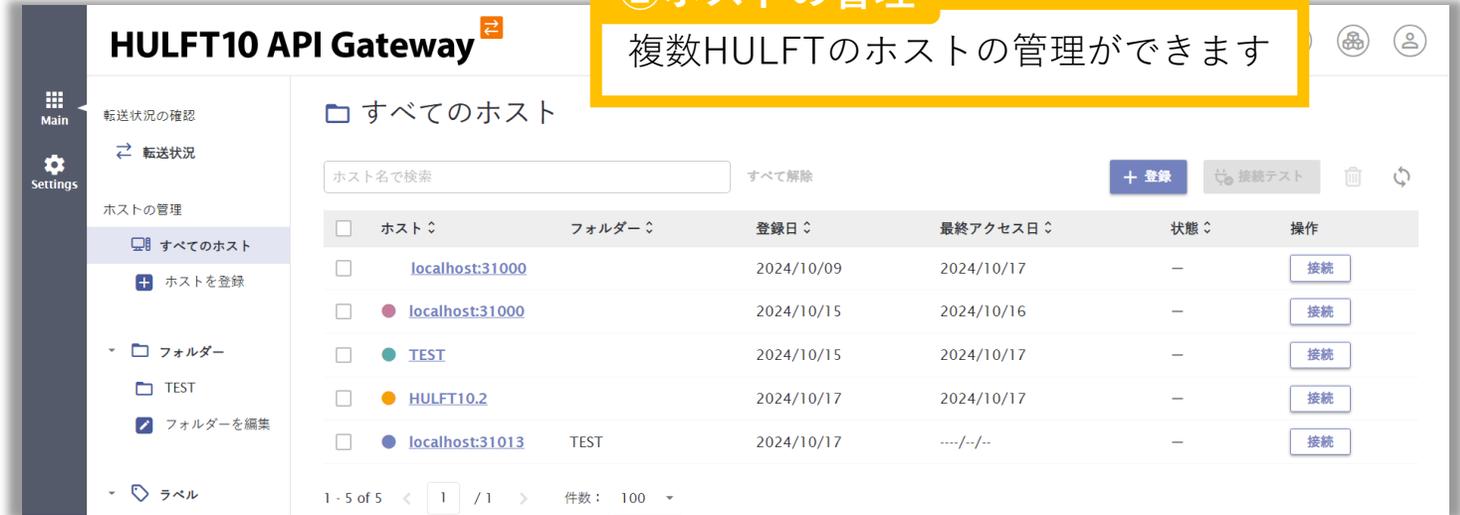
① ログイン画面

利用者のブラウザからログイン操作できます



② ホストの管理

複数HULFTのホストの管理ができます

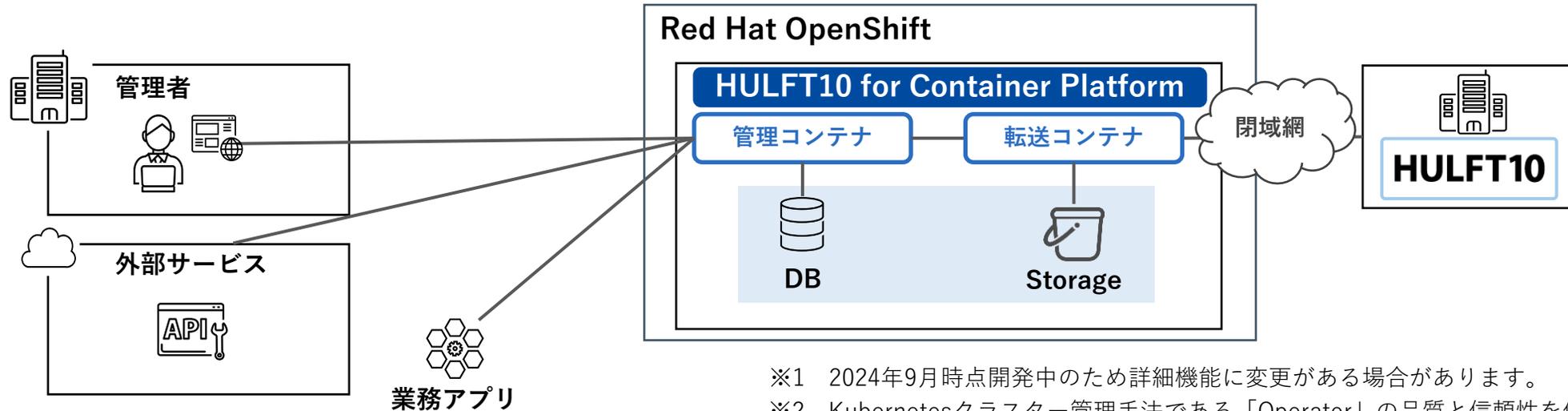


③ HULFT管理画面

管理対象のHULFTの設定情報を一元管理



- Red Hat OpenShift上で利用するKubernetesコンテナオーケストレーションプラットフォームです。Red Hat社のOperator認定※2を受け、Kubernetesリソース管理の品質と互換性を担保します。



※1 2024年9月時点開発中のため詳細機能に変更がある場合があります。

※2 Kubernetesクラスター管理手法である「Operator」の品質と信頼性を保証します。

管理コンテナ

- ✓ 管理情報や履歴などのGUIによるHULFTの設定と管理
- ✓ 管理画面やWeb APIでの操作で外部サービスや業務アプリとの自動連携
- ✓ 管理情報や履歴をコンテナから独立した永続領域で保存、別コンテナへの引継ぎやバックアップ

転送コンテナ

- ✓ 転送負荷に応じた転送コンテナの自動起動による必要リソースの柔軟な確保
- ✓ コンテナ固有のメリットである自動起動により障害発生時のサービス可用性と業務継続性の確保



< 免責条項 >

本資料の内容は、資料作成時点の当社の判断に基づいて作成されているものであり、今後予告なしに変更されることがあります。よって本資料使用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

また、本資料の無断での複製、転送等を行わないようお願いいたします。

なお、本資料に記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。